

児童健全育成賞（数納賞）佳 作

『放課後児童クラブにおける減災教育の実践』

～災害図上訓練による安全意識の向上～

福岡県北九州市

学童支援員（田原学童保育どんぐりクラブ） 金 指 雪 代

1. はじめに

私が勤務する田原学童保育どんぐりクラブ（以後どんぐりクラブと称する）は、放課後児童クラブとして7年前小学校敷地内に、近くの曾根保育園敷地内から移設されました。40名程度だった児童数が年々増加し、今年度は127名でのスタートとなりました。共働き家庭が増え、どんぐりクラブに入所を希望する児童も増加の一途となっています。

児童数の増加に伴い課題も増えてきました。課題の中でも特に、「安全対策」「防犯防火対策」と「防災対策」が占める割合も大きくなってきました。これらの対策については、児童館、放課後児童クラブにおいてもそれぞれに力を入れ取り組まれていると思います。

安全対策を考える上で重要になってくるのが、「人任せではなく、自分で考える」ことだと思います。「子どもたちにどうすれば自分の身の回りの安全を考え、行動できるようになるか」について考えてきました。そんな時、市政日より（平成24年北九州市）において、地域で防災意識を共有するために、『災害図上訓練』というものがあることが掲載されました。子どもたちに災害を身近なものとしてとらえるのに、良い機会になるのではないかと考えました。そこでどんぐりクラブでは防災対策の一つとして、子どもたちそして地域の人との災害図上訓練を

行うようになり、今年で5年目になりました。地域とのかかわりが強い児童館や放課後児童クラブからすると、意外に思われるかもしれませんが、どんぐりクラブは地域とのかかわりが少なく、地域との連携も課題の1つになっていました。災害発生時、地域との連携は欠かすことのできないものです。実際に大掛かりな災害訓練を実施するとなると大変ですが、地図上で災害を想定するというのなら、実施できるのではないかと考えました。しかし、子どもたちが経験をしたことのない災害を、どうイメージするのかは疑問でした。

最近では熊本・大分の地震、台風などによる豪雨災害や阿蘇火山の噴火があり、減災について真剣に取り組まなくてはならなくなってきています。災害が発生してからではなく、事前に少しでも考えられるようにと取り組んでいる防災対策のうち“災害図上訓練(DIG)”について報告します。

2. 災害図上訓練・DIGの概略

災害図上訓練(DIG)とは、災害(Disaster)を想像(Imagination)していくゲーム(Game)です。この章においては、災害図上訓練の一般的な概略についてお話しします。手法としては、大きな地図を用いて参加者全員が、災害対策本部の運営イメージを、ゲーム感覚で行う災害対策トレーニングです。災害図上訓練には決まっ

たルールはなく、参加者全員で様々な災害を想定し、意見を出し合っていきます。

大きな地図を用意し、その上に透明なシートを重ね、油性マジックやドットシール、付箋紙などを使用し、情報を書き込みながら行います。準備物として表2-1を用意します。

表2-1 災害図上訓練の基本準備物

①	A 1 サイズの白地図
②	透明シート（①の白地図にかぶせる）2枚
③	油性マジック
④	ドットシール
⑤	付箋紙
⑥	セロテープ

次に災害図上訓練全体の流れについて説明します。

2-1 オリエンテーション

- ①参加者に災害図上訓練とは何かを簡単に解説します。
- ②災害図上訓練を行う上でのルール説明をします。
- ③グループに分かれます。
- ④災害のイメージを共有します。

2-2 基本地図の作成

まずは白地図をセロテープで固定し、その上に透明シートを2枚重ねます。1枚は右側を固定し、もう1枚は左側を固定します。次に河川、池、沼などの「自然条件」や、鉄道や道路などの「町の構造」そして防災上役立つ施設など「人的、物的防災資源」を記載して基本地図を作成します。

（１）「自然条件」を地図に書き込みます。

- ①現在の「自然条件」を確認します。
 - ・現在の市街地の位置
 - ・海岸線、湖岸線の位置
 - ・山と平地の境界線
- ②昔の「自然条件」を把握します。
 - ・昔の市街地の位置
 - ・昔の海岸線、湖岸線の位置
 - ・昔の山や平地の状態

・昔の河川、池、沼の状態

（２）「町の構造」について、油性マジックを用いて地図に色を塗っていきます。使用する色は特に決まっていません。

- ①鉄道・・・黒色
- ②主要道路・・・茶色
- ③路地・・・ピンク色
- ④広場、公園、学校、神社・・・緑色
- ⑤水路、用水、川・・・青色

（３）地域の「人的、物的防災資源」プラスにもマイナスにも働く施設や設備に、ドットシールを貼っていきます。

- ①官公署、医療機関、災害援助にかかる機関施設・・・青色
- ②地域防災上役立つ施設など、例えば避難所、食料品や日用品、薬品などの店、燃料販売店・・・緑
- ③転倒、落下、倒壊した時に危険となる施設など、例えば危険物貯蔵施設や石垣、ブロック塀、屋外広告物、自動販売機・・・赤

3. 放課後児童クラブにおける災害図上訓練地図作り

どんぐりクラブの災害図上訓練(DIG)は3年生が中心になるため、児童にもわかりやすく取り組めるように、手法など変えて行っています。この章においては、実際にどのように行っているのかについて報告します。

3-1 白地図に目標物を記入

まず事前に小倉南消防署から白地図（A1サイズ）を入手しました。この段階での白地図には、建物名や河川の名称などは全く明記されていない地形図です。そこで目印となるものを支援員により書き込みます。

次に子どもたちが自分の家を地図上で探し、その場所に付箋を付けていきます。5、6年生でも地図上で自分の家が、どこにあるのかを見つけることは難しく、それが3、4年生となるとより困難な作業となります。そこで支援員が手伝い、子どもの家をインターネットを利用し、地図情報の住所検索により探します。作業を通

して、子ども達が遊んでいる公園や危険な場所などの情報を得ることができます。

3-2 グループ分け

どんぐりクラブは北九州市小倉南区田原地区に位置します。田原地区は大きく田原、田原新町、津田、津田新町、雇用促進住宅の5町内区から構成されています。そこで、グループ分けは住所による町内区で行っています。また各グループには、その町内の代表者に加わってもらいます。

3-3 災害について学ぶ

災害図上訓練の実施にあたり、毎年小倉南消防署予防課に依頼しています。担当係官はその時々で異なりますが、毎年日本国内の災害や、身近な地域における災害について、子どもたちに理解しやすいように、映像を交えながら話をしてもらっています。そして実際の基本地図作りに取りかかります。

3-4 基本地図作成

基本地図を作成する際、まずテーブルに白地図を広げ4隅をテープで留めます。次に2枚の透明シートを重ねます。1枚目は右側、2枚目は左側をテープで留めます。白地図と2枚の透明シートが組み合わさった地図を用意します。すべてが重なった状態で、子どもたちの自宅位置に黄色ドットシールを貼っていきます。そして自分の家から学校までの通学路を赤マジックで書き込みます。貼り終わった段階で白地図上の自宅位置を示す付箋を外します。

2枚の透明シートをめくり、白地図に前述2-2基本地図の作成「(2)『町の構造』をマジックで地図に色を塗っていく」と「(3)地域の『人的・物的防災資源』にドットシールを貼っていく」作業をグループ単位で行っていきます。

3-5 地域に起こり得る被害を書き込む

ここまでの作業が現状調査となります。ここからは、子どもたちと地域の人が一緒に災害を想定し、その上でどうすれば良いのかを考えていく図上訓練となります。

1番上のシートをめくり、2番目の透明シート上に災害が起こった時に、どのような被害が

出るかを考え、マジックで書き込んでいきます。地震発生時に考えられる「建物被害」「がけ崩れ」「延焼火災」「電信柱や看板などの器物倒壊」、そして身近なところでは大雨による被害についても考えていきます。子どもたちにとっては、どちらかと言えば後者の方が現実問題としてとらえることができているようです。

各グループに地域の代表者が加わってもらっているため、過去の被害状況や地域の防災防犯情報なども教えてもらうことができ、とても参考になります。

4. 子どもと考える減災学習

3章で作成した地図に基づき、子どもたちと一緒に災害発生時に、どのような状況になるのかを想定していきます。自分たちがいつも利用している通学路が安全なのかを考えます。地震発生時に「どういう行動をとるのか」「どこに避難すればよいのか」など意見を出し合います。子どもらしい意見が出されました（5章参照）。大人と子どもとでは安全と考える場所に、違いがあることがわかり驚きました。子どもの意見を収集する中で、家族間で災害について話し合っていないことがわかります。それは、保護者そして私たち大人の災害に対する意識が希薄で、現実としてとらえていないことが主な理由であると考えます。

小倉南消防署予防課の係官が「小学2年生の娘とは『地震発生時、小学校の教室のある階のトイレ前で待ち合わせをしている』また『登校途中の時は、家に戻るか、学校へ行くのかはどちらか近いほうにする』と決めている」と話されたことがとても印象に残っています。

保護者や大人の減災に対する意識を、変えることは難しいことです。そこで、子どもたちが災害図上訓練で学んだことを、帰って家族と話す時間を持ってもらうことにしました。このことは災害図上訓練をどんぐりクラブで実施している目的の1つでもあります。目的については6章で述べたいと思います。

係官から子どもたちに対して、いろいろな問

題を出してもらいます。「避難所で迷惑になる行為はどんな行動かな?」「自分ができることは何かな?」など子どもの立場で考えることのできる内容です。

5. 5年間のどんぐりクラブでの災害図上訓練の歩み

5-1 第1回(平成24年7月2日)

まず、支援員が災害図上訓練を経験することになりました。小倉南消防署予防課に依頼し実施しました。地域の中でも知らないところがたくさんあり、危険個所がどこにあるのかもわからない状態でした。保護者から情報収集をする必要があると感じました。支援員間で災害トレーニングができたことが、この2日後の大雨時に役立ちました。

5-2 第2回(平成24年12月25日)

3年生以上の児童(22名)、地域代表(3名)が参加し、第1回に経験済みである支援員が、説明から進行に至るまで全てを行いました。初めて地域の方にも一緒に参加してもらい、子どもたちとともに基本地図を作成しました。子どもたちは白地図を見る機会が少ないこともあり、地図上のどこに何があるのかがすぐに分らない様子でした。川や公園など自宅近くの物しか見つけられず、地域全体となるとほとんどわからない状態でした。子どもたちは普段の行動範囲内にある川や公園しか知らないため、地震時に津波が川を遡って、自分たちの住む町までくることは想像できていませんでした。この訓練を通して、子どもたちは学校区に大きな川があり、海が意外と近いことを知り、「洪水や津波などの災害が他人ごとではないこと」「狭い道が多く、消防車などが入ってこられない所が多いこと」などに気付きました。

5-3 第3回(平成25年8月28日)

3年生以上の児童(18名)、地域代表(5名)が参加しました。この年から、小倉南消防署予防課に訓練の実施を依頼し、進行などすべてを任せています。子どもたちに白地図上で自宅を探し、学校までの通学路をシート上に書き込み、

その周辺がどうなっているのかについて考えさせました。自宅から学校までに何があるかと考えることで、子どもたちにとって訓練の目的が明確になり、「危険なところ」「避難できるところがどこか」を考える目安になりました。

地域の方にもこの訓練が浸透してきたように思います。第2回は3町内会長の参加でしたが、第3回は5町内の会長全員に参加して頂きました。この訓練では、「大雨の時、スーパーの前のマンホールから水があふれていたから危ない」「火事になったらガソリンスタンドが危ない」など子ども目線の意見が出されました。

5-4 第4回(平成26年8月27日)

3年生以上の児童(30名)、地域代表(3名)が参加しました。

子どもたちが地図を見ることに不慣れなことから、事前に支援員が地図上に目標物となる建物名や河川名を書き込み、それに子どもたちが自宅場所をプロットしていくようにしました。この工夫によって、当日の作業がとてもスムーズに行われました。

子どもたちにも白地図の理解がし易かったようです。この回は津波災害を想定して実施しました。どんぐりクラブの標高が海拔4mに位置しているため、建物3階以上への避難が必要となることから、3階以上の堅牢な建物を探す作業が加まりました。作業を通じて、周囲の情報について知っているようで知らないことが良く分かった訓練となりました。地域周辺の情報を整理するためには、地図を片手に町探検をして調べてみるのもいい機会になると思いました。

5-5 第5回(平成27年8月31日)

3年生以上の児童(22名)、地域代表(1名)が参加しました。

例年参加の町内会長は、当日に地域行事と重なったため、校区連合会長が代表として参加しました。

田原校区は水害に見舞われることが多く、今回の訓練では、川の近くが通行止めとなったと想定して、自宅から学校(避難予定場所)までの避難経路を考えるという事項を追加して実施

しました。

川が氾濫するような大雨時は、「2階以上の人は外に出ない方がいい」「自宅以外でもいいので上層階に避難する」「戸建てに住んでいる人は、2階に寝ることを心掛ける」などのアドバイスが出されました。また、「災害時は3日間自力で過ごさなくてはならない」と教えられ、日頃からの備えについて改めて考えさせられました。

子どもたち中心の訓練でもあるため「学校で避難生活をする時に大事なことは何か?」と聞かれ、みんな真剣に意見を交わしました。「騒がない」「迷惑になることはダメ」など当たり前のことですが、狭い空間で過ごすうえで大切なことを教えられました。この時最後に出されたのが「家の人と避難時、どうするかについて話し合っておくことが大事」「非常時の持ち出し品など用意してあるかな?」と問われ、みんな一緒に「話したことない」「わからん」と答えていました。この日、子どもたちは家に帰って家族と考えるきっかけとなりました。

5-6 第6回（平成28年8月22日）

3年生以上の児童（28名）、地域代表（2名）、地域の消防団員（5名）が参加しました。今年で5年目となり、訓練がどんぐりクラブにしっかり定着してきています。そのような中で、平成28年4月14日からの熊本・大分地震、10月7日には阿蘇の噴火と災害がとても身近に感じられるような事態が発生しています。実際に北九州でも高層マンションは揺れが大きく感じられ、怖がる子どもたちも多くいました。そのため訓練にも危機感を持って取り組んでいました。各グループに消防団の人も加わり、一緒に訓練を行いました。今回は「地震・津波のしくみ」「南海トラフで地震発生時、想定される被害はどれくらいのが考えられるか」など具体的な話から始まりました。

「地震発生時にどこに避難するか」についてみんなで話し合い、「家のすぐ近くのゴルフ場が安全だからそこに避難する」「公園に行く」など、子どもなりに考えた意見が出されました。

が、家族と災害について話し合いが出来ていないことがうかがえました。そこで、家に帰り今日学習したことについて、家族と話し合うことを宿題とすることで、訓練を締めくくるように指示しました。

6. 災害図上訓練をどんぐりクラブで行うことの意味

6-1 子どもをきっかけに家族で災害について考える

どんぐりクラブに入所している子どもの多くは留守家庭です。放課後から19時近くまでクラブで過ごす子どももいます。自宅に帰ってからも習い事や、保護者の勤務によっては夕食と一緒に食べることでできない子どももいます。親子でゆっくり会話をするのができない家庭も多くなっています。そんな中、災害について話す機会はほとんどないのが実状です。

災害図上訓練で子どもたちに「もし地震があったときは、どのような行動をとることになっていますか?」「家族でどこに集まるか決めていますか?」「地震に備えて何か用意していますか?」について聞きました。しかし、ほとんどの子どもたちが「全く考えたことがないし、話をしたこともない。」と答えました。私自身、家族と改まって『もしも…のときの行動』について話をしたことがありません。思いはあっても実行に移すことができていません。そこで、子どもから考えるきっかけを、大人に向けて発信するようにしてはどうか考えました。子どもたちはとても素直に私たちの期待に応えてくれます。

子どもから働き掛け、家族で『もしも災害があったときにはどうすればよいか』について考えてもらうことが第1の目的です。

6-2 地域との連携を図る

第2の目的は、「減災」という共通のテーマで地域との連携を図ることです。災害発生時、自治会の果たす役割はとても重要です。地域の自治会は、日ごろから防犯防災などの対策に対し自治体と連携を図っています。どんぐりクラ

ブが地域の一角として位置づけられ、災害時には援助の歯車として機能できればと考えています。そのためにも地域との連携は欠かすことができません。

しかし今はまだ、地域との連携は不十分で、行事などを企画し参加協力は得られていますが、それ以外で地域から要請されることはありません。またどんぐりクラブを利用している家庭は自治会に加入していない世帯も多く、地域とのパイプ作りが課題にもなっています。

そこで、災害図上訓練をきっかけに、一緒に共通の話題でもある災害について考え、少しずつ地域とのつながりを築いているところです。

6-3 子ども自身で考える安全策

どんぐりクラブの子どもたちを見ていると「自分の身の安全を考えた行動ができています」というより「誰かに守ってもらっている」という感じがします。危険に対してあまりにも無防備に思われます。

一昔前には子どもたちは、川や道路など危険と背中合わせの場所でも遊んでいました。しかし、異年齢集団で遊びのリーダーが声掛けをしたり、注意を促したり、また、子ども自身が身をもって学ぶ機会も多かったと思います。

今は社会環境や生活も変化し、子どもたちの遊びも変化してきました。子どもたちの遊び場である公園も、野球やサッカーなど球技遊びができなくなり、集団で遊べる場所が減少してきました。

身体を使った遊びから、ゲーム機を使った遊びを楽しむ子どもが増加し、一人で静的な遊びを楽しむ子どもが増えてきました。そのため子どもが遊びを通して、危険を認識することが少なくなってきました。

日常生活においても、保護者の送迎があったり、様々な場所で細かいサポートがあったりと、危険回避がなされています。それはそれで良いことでもあります。自分で危険から回避することの練習ができなくなっていると思います。

「子ども自身で考える力を身に付けてもらい

たい」「安全について考え行動できるようになってもらいたい」このことが第3の目的です。

7. 今後の取り組みについて

第1の目的でもある「子どもをきっかけにし、家族で災害について考える」は、災害図上訓練後に子どもたちが話題を提供し、考えるきっかけになっています。しかしそれから先に進んだかについては疑問です。

そこで毎年実施している保護者会において、災害図上訓練の取り組みについて理解を求めて行こうと考えています。小さな取り組みでも継続することに意義があると思います。

第2の目的でもある「地域との連携を図る」については、この5年間の訓練を通じて、地域とのつながりが定着してきました。田原校区は平成27年度に、小倉南警察署、小倉南消防署、消防航空隊、陸上自衛隊、小倉南区総合対策本部などによる大規模災害を想定した、広域型の総合防災訓練が実施されました。子どもたちは小学校からの参加となり、私たち支援員は、どんぐりクラブとして初めて参加しました。今年度も規模は田原校区のみの防災訓練ではありますが、12月3日の避難訓練にも子ども達とともに参加し、これからも積極的にかかわる予定です。地域との足場作りも少しずつできています。

そして第3の目的でもある「子ども自身で考える安全策」については、3年生以上が訓練の対象となっているが、次年度になるとどんぐりクラブの現状として、定員などの関係上、経験児童が退所してしまうことが課題となります。

災害図上訓練を1・2年生も交えて行うことは難しいと考えます。しかし、その年経験した3年生以上の児童と、1・2年生でもできる簡単な災害図上訓練を考えたいと思います。

低学年の子どもは、地図中の公園や自宅と、実際の公園、自宅との相互関係が結びつきません。そこで、保護者に協力をしてもらい、子どもと一緒に自宅周辺から学校までの地図を描いてもらい、それを使って狭い範囲での災害図上

訓練を考えています。

ゲーム感覚で取り入れられないか、子どもたちと一緒に考えることで良い案が浮かぶことがあります。カードゲーム形式で減災学習を取り入れる構想もあります。

安全については、時々どんぐりクラブの遊びの一環として、「室内の危険見付けゲーム」をしたりします。5分間で子どもたちに危険だと考えるものを紙に書き出してもらいます。順番に発表していったり、統計を取ったりします。

子どもたちは頭では知識として、危険な行為や場所について答えてくれます。しかし実際の行動を見ているとそうでもありません。例えば、「はさみを持って移動するときや、それを友だちに手渡すときはどうやって持つのか」を尋ねると、ほとんどの子どもが「持ち手ではなく、刃先側を握る」と答えます。でも実際を見ていると、持ち手に手を入れたまま動き回ったり、友だちに持っていた状態で、刃先が向いたまま手渡したりしています。

子どもたちが普段の生活の中で、安全や災害について意識できるようにこれからもどんぐりクラブ全体で取り組んでいきたいと考えます。

8. おわりに

災害図上訓練は、受け身ではなく参加者全員が主役となる防災訓練です。子どもたちなりの、そして大人もそれぞれの目線で考えることができます。それをどう生かしていくのが、成果につながります。

災害図上訓練を継続的に実施していることで、どんぐりクラブ全体で減災意識が高まってきていると実感しています。減災意識というものは、少しずつの積み重ねと継続することがとても重要だと考えます。日常生活において、子どもたち自身もそして私達も、減災と安全を意識しながら過ごさなくてはなりません。

施設内も毎年減災用品を増やし、災害図上訓練のたびに気持ちを引き締め、子どもたちと考えた事項を確認し取り組んでいます。手探りではありますが、どんぐりクラブ仕様の防災マニ

アルも作成し、常に改定を重ねています。

どんぐりクラブの支援員の半数以上が田原校区以外から勤務しています。災害発生時、自分たちがどのような行動をとらなくてはならないのかについて、考える機会は多いほうが良いと思います。災害図上訓練は子どもたちとの重要な行事であると位置づけ、これからも継続していきます。そして子ども達を預かる放課後児童クラブの支援員として、9月1日『防災の日』には減災研修を行いたいと考えます。今年度早速、支援員で生協主催の「減災学習会」の報告会と、災害伝言ダイヤルの利用経験をしました。これからも防災マニュアルの見直しや減災に対する取り組みを行っていきます。

そして何よりどんぐりクラブとしての特色でもある、入所している子どもの保護者との良好な繋がりを利用し、より密で深いかかわりを持った減災学習から、減災実践につなげられるように取り組んでいきたいと考えます。

今年は九州でも災害が続き、被災された方が身近にもおられます。実際に揺れを体感し、恐怖を味わった子どもたちもいます。しかし時間の経過とともに緊迫感も薄らいでいます。このゲーム感覚の訓練活動を継続していくことで防災・減災を考え続けられるようにしたいと思います。

小倉南消防署予防課の災害図上訓練を通して、災害や減災に関して最新の情報を提供してもらえることに感謝します。また、大人も少しずつ危機管理ができていることを感じています。

どんぐりクラブで行う災害図上訓練が少しでも防災対策、安全対策に役立ち、家族間、そして地域における減災活動につながるよう貢献していきたいと考えます。